

平成17年9月 定例会（第3回）

17番（藤田精治君） 平成17年第3回定例会，通告に従い，一般質問を行います。

まず初めに，旧国立水戸病院跡地についてお伺いいたします。

独立行政法人水戸医療センターが茨城町「桜の郷」に移転して，はや1年がたとうとしています。新たな地域の人々には高齢化社会に適応した広範な地域の病院として受け入れられ，人にやさしいまちづくりに寄与していることは間違いありません。

さて，その旧国立水戸病院跡地であります，移転以降，平成17年2月から4月にかけて，病院跡地の土壌汚染調査及び地下水調査を行い，土壌汚染等調査結果について，フッ素の土壌溶出量が基準を超えたエリアが確認されたと委員会に報告されましたが，さて，これからが問題なのです。全国の各病院跡地では，大量の医療産業廃棄物が出てきて，その対応に頭を抱えているのが実情であります。

この書類は，昨年3月にインターネットでちょっと取ったものですが，これによりますと，福島県の県立大野病院の旧病棟敷地から注射針や薬瓶，医療用チューブなど大量の医療産業廃棄物が見つかったと，それがまた20トン以上に及んでいるということでございます。医療産業廃棄物は，同病院の旧病棟の解体工事中，本館裏の北西部分で業者が発見したということでございます。廃棄物は，昭和46年以前につくられたレンガづくりの焼却炉の周辺に埋められていたということでございます。また，本荘市の旧国立療養所秋田病院跡地からは，また薬瓶や注射器，注射針といった医療産業廃棄物がさまざまなごみに混ざって出ております。

昨年3月のインターネットでやりますと，数限りなく例が載っておったんでございますが，その話が一時全国的にも話題に上ったのかどうか，すぐに全部消されてしまいました。今インターネットを見ても多分出てきませんので，たまたま2枚持っていましたので，ここで発表させていただきました。

旧国立水戸病院も例外ではないはずですが。

そこでお伺いしますが，今後の敷地内埋設医療廃棄物の掘削調査及び除去処理についてどのように監視，指導するのか，お聞かせください。

さらには，解体工事に伴う地元での説明会後の現状，進捗状況をお伺いいたします。

次に，跡地利用についてお伺いいたします。

水戸市は，水戸医療センター跡地の活用についての要望書を本年5月27日に県知事あてに提出しました。この跡地については，市民の健康づくりやスポーツ，レクリエーション活動など市民の日常的なニーズに対応した健康増進のための機能，多世代交流を図るための機能，多目的機能を有する公共施設の整備等々，複合的な導入をあわせて検討いただくよう要望いたしました。私も，この要望書の内容には

十分に納得しておるところであります。

さて、そこで提案ですが、水戸市、さらには上市西部地区の人たちのための健康づくり、日常的なニーズに対応した健康増進のための多目的な機能を持つ公共施設として、現在注目度の高い、仮称であります、いきいき健康センター等を整備してはいかがでしょうか。

さらには、地域の公共スポーツ施設としての多目的屋内プールの整備もあわせて御提案いたします。

と言いますのも、この地域は、常磐小学校、幼稚園、新荘小学校、水戸一中、水戸盲学校、水戸商業高校、そして水戸女子高、常磐大高校、そして大学、茨城高校が約1キロメートル以内に位置し、整備、所有している学校の、そのプールの老朽化は現在目も当てられない状態であります。

そのような中、新荘小学校が新装改築されました。屋外プールがまたつくられるのでしょうか。そして、近い将来改築されるだろう常磐小学校にも屋外プールがまたつくられるのでしょうか。非常に問題であります。

例えば、これらのプール施設建設費用で地域が一体となった屋内プールが跡地に整備されたとしたらどうでしょうか。結果、近隣の各学校は、施設改築のとき、もうプールをつくる必要がなくなってくるのです。将来の地域スポーツの発祥の地として、年間を通した屋内プール、そして健康増進のためのセンターが地域の中心にあることはいかにすばらしいことか、大いに期待するところであります。

地域の公共施設としての多目的健康増進センター、そして多目的屋内プールの整備を提案いたします。

次に、水戸ホーリーホックについてお伺いいたします。

1994年、サッカークラブチームFC水戸の創設以来、数々の試練を乗り越え、97年にはプリマハムフットボールクラブ土浦を吸収合併し、フットボールクラブ水戸ホーリーホックが設立されました。そして、Jリーグ2部制移行に伴い、新JFLに参加、破竹の7連勝でセカンドステージで優勝を飾り、総合3位でJ2昇格が決まり、クラブ創立4年目で初参戦し、9位の成績をおさめ、その後2003年には、現在J1浦和レッズで活躍している田中マルクス闘利王を中心に7位の成績を上げ、大変注目されたことは皆さん御存じのとおりであります。

J2に昇格して6年目の今年は、J1昇格を目指し、クラブ一丸となって戦っているところあります。FC水戸ホーリーホックのコンセプトは、住民、行政、サッカー関係団体、スポンサーの方々に愛される市民クラブ実現に向けて、クラブ、チームのスタッフ、選手全員で取り組み、愛されるクラブづくりをさらに進めるとうたっています。

そこでお伺いいたしますが、行政として今日までどのような支援をしてきたのか、さらには、今後の支援についてもお答えください。

次に、練習場の施設についてお伺いいたします。

私は、全国にも数少ない、このＪリーグチームが水戸市をホームタウンとしておることは大変素晴らしいことだと思っており、当然大いに活用していくべきであると考えています。

そのような中、水戸市立競技場が改装されることが決まりました。まことに素晴らしいことでもあります。水戸ホーリーホックのホームスタジアムになることが地域の活性化にもつながることと期待してやみません。

今シーズンも選手たちはＪ１を目指して頑張っているところですが、現在、水戸ホーリーホックは、１２チーム中１０位と低迷しており、その低迷の原因として、若く将来性のある選手たちの固定した練習場がないことが指摘されています。

実は、この間、コンサドーレ札幌との試合を見てきましたが、たまたま前半、後半の走りを見ていましたが、そのときはオウンゴールで１対ゼロで勝ったと記憶しておりますけれども、現実に途中のころから、コンサドーレの選手はやたら駆け回りますが、水戸ホーリーホックの選手はどうも途中でとまってしまいうんですね。私ごとで言わせていただくと、まことに失礼かもしれませんが、どうも途中でとまってしまう。これは、どう考えても練習不足です。というのは、コンサドーレ札幌が攻めてきます。一緒についていけないんですね。相手のコンサドーレ札幌の選手は、走り回っています。これはやはりどう考えても練習不足の感が否めません。

定まった練習場がないことは、ホーリーホックが行っているユース、ジュニアユース、サッカー教室など地元育成事業活動にも大きなハンディとなっているのが実情です。水戸市民球団として定着するためには、市内に固定した練習場があることが望ましく、住民の近くで選手たちが毎日練習をしていれば、より水戸のチームとして愛着が増すことは間違いありません。

ちなみに、今練習場として使用しているのは、水戸のツインフィールド、水戸市立競技場、ＪＡ農村研修館グラウンド、那珂総合公園、いこいの村涸沼グラウンド、グリーン桂うぐいすの里とあっちこっち転々としているのが現状です。

そこでお伺いしますが、ホーリーホックが優先的に使用できるサッカー練習場として、青柳にある那珂川河川敷跡地の活用はいかがでしょうか。

以前にも多目的な広場として国との折衝で野球場などの施設があり、サッカー練習場としてホーリーホックの選手たちの住まいからも近く、市民との交流にしても、これ以上の場所はほかにありません。固定した水戸ホーリーホックの練習場として施設の確保はいかがでしょうか。

以上、質問を終わります。

市民環境部長（戸村洋二郎君） 藤田議員の一般質問のうち、旧国立水戸病院の解体工事についてお答えいたします。

旧国立水戸病院につきましては、これまでの業務内容の調査からは有害物質の使用は確認されませんでした。が、土壌汚染の可能性も否定し得ないということから、土壌汚染対策法に準じた土壌、地下水調査の実施を指導してまいりました。

調査の結果、一部の区画でフッ素及びその化合物の土壌溶出量が環境基準を超過していることが確認されました。汚染土壌を除去することで、事業主体となる水戸医療センターと協議を重ね、合意を得たところであります。

また、敷地内に埋設されている可能性のある医療廃棄物につきましても、解体工事にあわせて調査及び除去する計画となっており、その手法等について関係機関と協議をし、実施することになったものであります。

さらに、解体工事に当たりましては、地元への情報提供に努め、騒音や交通上の問題等に十分配慮して実施することとしており、これらにつきましては、既に地元説明会においても住民の方々の了解を得ているところであります。

次に、解体工事の進捗状況でございますが、9月現在、建屋の4分の1が終了しておるところであり、10月を目途に埋設医療廃棄物の調査に入る予定となっております。

市といたしましては、指導機関でございます茨城県と連携を図りながら、随時確認のための立入調査を行い、医療廃棄物が残留することのないよう十分な監視を行ってまいります。

市長公室長（皆川義光君） 藤田議員の一般質問のうち、初めに、旧国立水戸病院の跡地利用に関する御質問にお答えいたします。

旧国立水戸病院、すなわち水戸医療センター跡地の活用につきましては、本市にとりましても重要な課題と認識しておりますことから、先日、市議会の御意見や地元の意向等を踏まえ、跡地の利用方策に関しての要望書を県に提出したところでございます。

その中では、水戸医療センター跡地が位置しております新荘・常磐地区が少子・高齢化の進行が顕著な地区であるとともに、教育施設が多く立地する地区であることなどの地域特性を踏まえまして、市民の健康を守るための医療機能や議員から御提案のありましたような健康増進のための機能等について、民間活力の活用も視野に入れながら複合的に導入すること、さらには大学等の文教施設の誘致や多目的機能を有する公共施設の整備等について、あわせて検討するよう要望したところでございます。

当該跡地は、茨城県が保有する未利用地についての庁内検討組織において既に検討され、基本的には売却処分の方針となっているとかがっております。

現在、茨城県においては、本市の要望内容等を参考にしながら、跡地処分に当たっての方針、あるいはその時期等について検討を進めているとかがっております。

議員御提案の健康増進センターや多目的屋内プールの整備につきましては、既に県に提出いたしました要望書の中で、健康づくりやスポーツ、レクリエーション活動など市民の日常的なニーズに対応した健康増進のための機能の一環として、売却処分に当たって検討いただくよう要望したところでありますので、引き続き、地権者であります茨城県に対し働きかけてまいりたいと考えております。

次に、水戸ホーリーホックに関する御質問にお答えいたします。

水戸ホーリーホックは、全国でも数少ないJリーグのチームであり、地元のスポーツ文化の振興に向けて大きな役割を担っているだけでなく、地域活性化の大きな財産であり、全国に向けて水戸をPRする貴重な資源であるとも認識をいたしております。

水戸ホーリーホックを地域に密着した市民球団としてさらに伸展させていくためには、市民一人一人が参加した広域的かつ組織的な支援が必要であるとの認識から、本市では、県、周辺市町村、産業経済団体、スポーツ団体等の協力を得て、平成14年に水戸ホーリーホック・ホームタウン推進協議会を設立するとともに、広報「みと」への試合日程の掲載や懸垂幕の掲示による市民へのPR、市民のファンクラブや水戸ホーリーホック支援持株会への加入促進など、その支援に努めてきたところであります。

今後とも、推進協議会を通じた支援が基本となりますが、関係機関、関係団体と連携を図りながら、支援活動の充実に努めてまいりたいと考えております。

次に、練習場としての施設の確保についてでございますが、現在はホーリーホック独自の練習場がないことから、シーズンを通し練習場の確保が大きな課題となっていることは認識をいたしております。

また、地元から将来すぐれた選手を輩出することを目的としてホーリーホックが行っているユース、ジュニアユース、サッカー教室等の場所の確保についても、同様の課題を抱えているということは認識をいたしております。

このようなことから、地域のスポーツ振興の役割を担ってもらうためにも、練習環境を整えることが当面の重要な課題であるということは、そのとおりだと思います。

このような中、水戸ホーリーホックの練習場として、那珂川河川敷を利用してはとの議員御提案の件につきましては、本市といたしましても、プロサッカーに限らず、広く市民スポーツの振興の面からも必要であると、そのように認識しておりますことから、土地の所有者であります国を初めとして、関係各機関との調整を図りながら、その実現に向けて努力してまいりたいと考えております。

17番（藤田精治君） それぞれ答弁ありがとうございました。

まず、国立病院跡地の件でございますが、私ども地元といたしましては、長年の

夢であります - - 水戸市の地図を広げてください。真ん中に位置しています。本当に真ん中に位置しております。しかも、この土地は、今から将来において、あれだけの土地をいかに - - 住宅地として使ってしまうのか、それとも公共といいますか、地元の人たちのみんなのために、今言ったような少子・高齢化、あとはいろいろな皆さんのために施設をつくるか、どっちがいいか、これはもう確実に目に見えているところであります。

これは、本当にぜひお願いしたいところでございますが、今言ったように、新莊・常磐地区は高齢化しております。今、本当にはやっています体のための健康増進センター、これは市民がみんな要望しているところでありまして、例えば、そこにお風呂があって、みんなと一生懸命コミュニケーションをとる、それで人生を謳歌する、こういう施設があってもいいのではないかと。それは非常に思うところであります。

と同時に、この土地を全部買えとは言いませんので、借りるなり、あとは少し買えるところがあるなら買って、本当に上市の西部、水戸市の市民のために土地は有効に活用させていくのが当然ではなかろうかと思っておりますので、どうぞその辺のところは県、国に要望をお願いいたします。

それと、ホーリーホックの件につきましては、今、河川敷ということで、あのところは、言えはできるのではないかと。地元の町内の人たちも、あの場所を使いたいということであります。それは現実に今まで使っていたところでありますから、それは整備するのも何事もなくできるわけでありまして、水戸ホーリーホックというのが、J2で、これがもしもJ1に上がったらどうなりますか。大変な水戸の名前が売れるということでありますから、それはそれで、水戸市としてバックアップは必要で、スポーツを通して地域おこしということが非常に大事なことであります。

そういうことを私の気持ちとして要望します。ぜひよろしく申し上げます。

ありがとうございました。